

【経済理論】 飯島 大邦 ゼミ



演習テーマ：現代の政策課題について総合的に考える

現代の政策課題について検討する場合、経済だけに注目しても不十分であり、それと密接に関連した政治および行政、さらには社会のあり方など、さまざまな視点から、歴史、理論やデータを踏まえた分析を試みる必要があります。

本ゼミでは、上記の点に留意して、さらには経済学の学際性に注目して、現代の政策課題に対して、独自の政策提言を示すことができるようになることを目標とします。その過程で、社会人として必要な以下の力を身につけることも目標とします。

【問題発見】経済、政治および社会の観点から、現代の社会における政策課題を見つける。

【仮説設定】経済、政治および社会の観点から、政策課題の背後にある要因を考える。

【解決策立案】仮説を踏まえて、言葉、図やデータによって、政策課題の解決策を提示する。

【協調性】問題発見から解決策立案までのプロセスを、グループのメンバーで行います。

ゼミの具体的な活動としては、上記の 4 つの力を身につけるために必要な基本的な勉強のほかに、ゼミ活動の成果をかたちとして残すことができるように、対外的な活動もしています。例えば、2 年次および 3 年次それぞれにおいて、毎年 11 月に開催される日本公共選択学会主催の「学生の集い」に参加しています。「学生の集い」においては、学会より事前に指定された共通論題に対して、論文を提出し、さらにその論文に対してプレゼンテーションをし、優秀な論文に対しては表彰もされます。また、みずほ学術財団懸賞論文に応募するときもあります。何れにおいても、本ゼミは、入賞歴があります。さらに、ゼミ活動の詳細については、ChuoOnline に掲載された文章「政策創造力を養う—実学による人材養成の試み—」を参考にしてください。(URL: <http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/education/20140306.html>)

このように、本ゼミでは、対外的活動を重視して、総合的観点から、現代の政策課題について検討します。